

# しまだい

s h i m a d a i

広報しまだい

2016.07

vol. 29

特集1

## 「ふるさと魅力化フロンティア 養成コース」始動

特集2

## 古代出雲文化フォーラムⅣ in太宰府開催

特集3

## COC/COC+事業レポート 広がり続ける島根大学の学びの場



# 教育の魅力化から地域に活力を!! 「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」始動

本学初の試みである、教育の魅力化と地域振興とを結びつけ、地域活性化に取り組み人材を輩出することを目的とした履修証明プログラム「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」がスタートしました。

## 本履修証明プログラムの概要は？

「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」とは、高校の魅力化など教育を切り口とした地域活性化において実績を持つ、島根県隠岐郡海士町などの取り組みを分析・研究し、大学の教育プログラムとして開発したもので、地域活性化を志す社会人を受け入れる二年間の人材養成コースです。

県内の高校魅力化コーディネーターが行う実践的な講義、本学教員が担当する理論的なアプローチによる講義、そして海士町、飯南町での実習を組み合わせ、最後に修了レポートを作成します。コース修了後も、講師や受講生同士の繋がりをサポートすることで、地域に戻って活躍を続ける上で重要なモチベーションを維持し、地域活性

化の志を持ち続ける同志としての連帯感を醸成します。

## 意気込み溢れるコース開講式！

4月15日、選考を経て決定した16名の受講生を迎え、平成28年度ふるさと魅力化フロンティア養成コース開講式を行いました。地域活性化に対して熱い想いを抱く32名もの応募があり、選考の結果16名の自治体職員、教育委員会関係者、NPO法人等で勤務する社会人を受け入れました。服部学長の激励の挨拶、隠岐郡海士町長



服部学長より「過疎化・少子高齢化問題の最先端地である島根県において先進的な取り組みを行う海士町、飯南町と連携した教育プログラムがいよいよ始動しました。地域に貢献する人材の輩出にご期待ください。」と挨拶がありました。

の山内氏、飯石郡飯南町長の山碕氏からの祝辞に続き、受講生を代表して京都の教育委員会に勤務する井崎氏が意気込みを語りました。

続いて、本コースの講義の一つ「学校魅力化論」の中では、「前川喜平氏が語る、魅力ある学校論」と題し、文部科学審議官・前川喜平氏による特別講義が行われました。島根の課題であると同時に日本全国の課題でもある地域活性化について、教育を通じて振興を図るといふ本コースのコンセプトに対して期待が述べられました。前川氏の特別講義を受けて、「学校魅力化論」の担当講師である岩本悠氏の巧みなファシリテーションに促され、受講生および特別講義の聴講者など総勢92名がディスカッションを楽しみ、開講初日からアクティブラーニングの手法を取り入れた魅力的な講義が展開されました。



文部科学審議官・前川氏による特別講義。受講生たちは熱心に耳を傾けていました。

### 【特集3】

#### <COC/COC+事業レポート>

しまだいCOC・オールしまねCOC+事業でさらに深まる大学と地域との連携…… 07

#### ◎島根大学の研究・地域貢献事業紹介

- ①教育学部 加藤寿朗 教授 …………… 11
- ②総合理工学研究科 宮本光貴 准教授 …… 13

- ◎ひろしまフラワーフェスティバル …… 15
- ◎学位授与式レポート …………… 17
- ◎世界へ広がる 世界とつながる(国際交流紹介) …… 19
- ◎しまだい便り …………… 21
- ◎しまだい Active(学生活動紹介) …… 23
- ◎しまだい's サークル(サークル紹介) …… 25

#### ◎島根サノオマジック活動紹介

- 島根大学支援基金寄附者一覧
- 読者プレゼント …………… 26

表紙/雲南市波多地区で行われたCOCフレッシュマンセミナー参加学生



## 講師の先生方にInterview!

本コースの特徴や授業にあたっての工夫、今後の展望についてうかがいました。



岩本 悠氏  
地域教育魅力化センター  
アドバイザー

学習者の成長と各現場の課題解決を同時に引き起こしていく次世代型のリーダーシップ開発に挑戦しています。全国の多様な立場の人間が、チームとして学びあい、共創していく新たな学びの形に手応えを感じています。コース修了時には、その後も

協働し学習し続けるコミュニティになっていることが目標です。今後は「グローバル」に活躍できる人材育成に向け、海外にも学びの裾野を広げていきます。



小田 順二 准教授  
教育開発センター専任教員  
(地域教育魅力化センター)

このコースは、社会人が対象です。仕事の後や週末など勤務時間外の学習が前提となります。遠隔ライブ講義、補完的なeラーニングコンテンツを用意するなど、様々な工夫をしております。地域活性化に対する熱い

想いをもち、志の高い社会人の受講生が集まりました。一方、講師陣も同じ思いで日々活躍する実践者が多いため、同じベクトルを持つ志の高い集団が生み出すパワーに期待しています。

## 受講生の声

さらに詳しい  
内容はコチラ



### 向 敦史さん

和気町地域おこし協力隊・  
岡山県立和気岡谷高等学校  
支援職員



今回の受講を経て、現場に戻って感じた最も大きな意識の変化は、日々の活動の中に構成主義の考え方が加わったことです。その場のメンバーによって作られる学びを大切にすることで、準備したものを元に、場に応じて柔軟に学びを創り出すことにチャレンジできています。

### 堂阪 博文さん

高等学校  
教員



地域の方と共に生徒を育む本質的な方法を模索していた際に、このコースと出会いました。地域も立場も違う受講生と一緒に新しい学びを創出しています。私自身、教員として新たなステージに向かうことができる手応えがあり、1年後の自分がどうなっているのか楽しみです。

### 井崎 洋之さん

京都府与謝野町  
教育委員会職員



地域の方が個々の人生を謳歌しつつも、皆でやるべきことがあれば、バツと集まり、楽しくこなせる。教育を通じて、このような社会を実現したいという目的を持って、本講座で勉強しています。将来、島根大学は第2の母校と言えるよう、1年間、楽しみながら頑張ります!

### 長谷川 由樹さん

奥出雲町役場/  
島根県立横田高等学校  
魅力化コーディネーター



全国各地で教育の魅力化を実現する講師陣・受講生とともに、質の高い学びを創り上げていくことに大変ワクワクしています。コースでの1年を通じて、自身が学び成長するだけでなく、得た知見を現場での実践に生かしていくことで、地域に還元できるよう精進したいです。

### 来年度の募集スケジュール

● 応募期間：10月下旬～11月下旬  
第一次選考（書類審査）

● 選考結果通知：12月中旬郵送

● 第二次選考：12月中旬～1月中旬  
(面接/電話インタビュー)

● 選考結果通知：1月末

募集スケジュールの詳細が決定次第、WEBサイトに掲載します。授業の様子なども多数アップしていきます。

地域教育魅力化センター  
<http://cerd.shimane-u.ac.jp/fmf>

島根大学 地域教育魅力化センター

島根大学広報誌

# しまだい

shimadai

2016.07  
vol. 29

【特集1】

「ふるさと魅力化フロンティア  
養成コース」始動 …………… 01

【特集2】

古代出雲文化フォーラムⅣ …………… 05

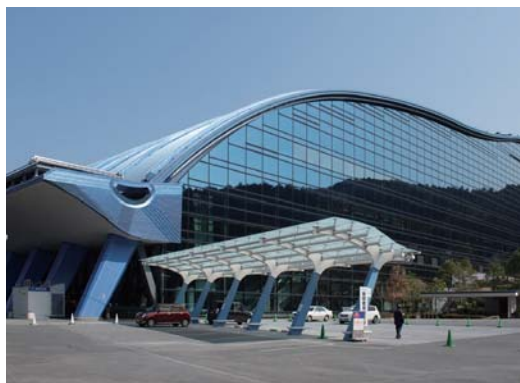
# 古代出雲文化フォーラムⅣ

古代の出雲と九州、  
そして東アジア



3月5日(土)、古くから出雲と

の交流の歴史を持つ太宰府市にある九州国立博物館において、『古代出雲文化フォーラムⅣ』を古代の出雲と九州、そして東アジア』を開催しました。平成25年の第一回東京開催以来、広島、大阪に続き、四回目となる今回も、約300名の方々が参加され、好評を博しました。



会場となったのは、開館10周年を迎えた「九州国立博物館」(福岡県太宰府市)。福岡県をはじめとする九州地方のみならず、遠くは神奈川県や埼玉県、大阪など日本全国から来場されました。

開会挨拶

島根大学学長 服部 泰直



本日は、日本の歴史を語る上で欠かせない場所、また、歴史の研究・情報発信の中心となるべき場所での開催をありがたく思っています。全国各地から多くの方に参加いただき、日本における古代の歴史、特に太宰府を中心とした九州地方、出雲の古代文化への関心の高さを改めて感じています。皆さまの興味関心に応えるべく、各研究者が研究の一端をホットな情報として提供します。古代のロマンに触れていただければ幸いです。



九州国立博物館館長 島谷 弘幸



古代史にはいろいろなロマンがありますが、切り口によって多様な見方ができる部分が多いので、そのような点を皆さま方の関心で楽しんでいただければと思います。本日の会場、九州国立博物館ですが、そのコンセプトは「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」ということでございます。本フォーラムの副題にぴったりの場所ではないかと思っております。それぞれの研究者が紐解いていく古代史を、皆さまなりにつなげていくということでお楽しみください。

第一部 基調講演

古代における九州と出雲

前九州国立博物館館長 三輪 嘉六



1938年岐阜県生まれ。奈良国立文化財研究所勤務の後、文化庁文化財保護部文化財調査官、日本大学文理学部教授等を歴任。13年間九州国立博物館初代館長を務め、2015年3月退任。

日本の文化財保護の制度的な始まりは、明治時代初期。遺跡などの不動産文化財は、1919年の「史跡名勝天然記念物保存法」による指定からです。それは遺跡を点的に扱った顕彰的な視点での保存でした。保存の在り方が大きく変わるきっかけになったのは、1970年以降の土地開発問題でした。遺跡は土地に附随する不動産文化財なので、土地開発が始まれば文化財も影響を受けることになる。土地開発

から文化財を守るには、点ではなく面的な広がりでの保存に入る必要があるという考え方が出てきました。この一つに「風土記の丘構想」があり、実はこの発想の原点になったのが出雲なのです。出雲では、文化財を社会的にどのように活用するかという論理を、1960年代にはすでに考えていました。これは日本でも最も早いと思われます。また、同時期の九州でも、大宰府政庁を中心に、面として捉えるという考え方が出てきており、お互い刺激し合う存在だったのです。出雲と九州は、日本における文化財保存の在り方のキーステーションになっていたと言えます。

第一部 講演①

先史東アジア海域交流の二側面  
—朝鮮半島・北部九州・出雲をつなぐモノ—

島根大学法文学部准教授 平郡 達哉

出雲と北部九州、そして朝鮮半島。この3地域を結ぶのは、海を通じた人々の往来でした。朝鮮半島と日本列島の交流の様子について、土器をはじめとする生活用品を中心に概観していきます。交流の始まりは旧石器



1976年大阪生まれ。専門は朝鮮考古学。花園大学、滋賀県立大学卒業後、木浦大学校、釜山大学校に留学。釜山大学校考古学非常勤講師、専任待遇講師を経て、2013年から現職。

時代後期からと考えられます。それを裏付けるのが狩猟道具に使用された剥片尖頭器です。朝鮮半島南部から海を渡って北部九州に狩猟道具をもたらした。これが一番古い日韓関係の物的証拠になります。新石器時代の交流は、漁労という生業を媒介に生活用品を中心に行われました。弥生時代の朝鮮半島南部・北部九州・出雲間の移動や移住、交易等多様な側面を推定することができます。時期によって交流の多寡はありますが、持続的な海域交流という基盤を持っていた朝鮮半島南部・北部九州・出雲間において、弥生時代後期以降の鉄・玉・貝製品を通じた交易が可能であったと考えられます。

# 第一部 講演②

## 鉄、玉、貝の道でつなぐ九州と出雲

九州国立博物館企画課長

河野 一隆



1966年福岡県生まれ。京都大学大学院修了。(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターを経て、2005年開館の九州国立博物館の設立に携わる。日本考古学、弥生～古墳時代を専攻。

九州を基軸とした弥生時代以降の様々な文化交流の一つに、鉄・玉・貝の日本海を通じた交易が挙げられます。弥生時代が始まった頃に九州で登場する鉄器は、遅くとも前期末には丹後半島まで達しています。舶載鉄器のスクラップを加熱して加工し、利器として使用したものであり、玉生産と結びついて波及しました。玉は、山陰・北陸で大規模生産遺跡が知られていますが、九州北部でも水晶や碧玉製玉作が確認されており、素材や製作技法が出雲と共通しています。貝は南島地域の特産でしたが、これを使った貝輪も日本海岸を遡上して北海道にまで達して

います。古墳時代には、このような基層的な文化交流に則って、「神宿る島」宗像の沖ノ島の祭祀が誕生します。国家祭祀として、新羅、北朝、さらには西域につながる品々が奉獻された背景には、玄界灘沿岸と出雲の氏族間の結びつきがあったのではないかと考えられます。こういった内容を通じて、地域王朝論の再検討をはかつていきたいと考えています。

# 第一部 講演③

## 古代国家と出雲・九州 — 東アジア世界のなかで —

島根大学法文学部教授 おびなた 大日方 克己



1957年長野県生まれ。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士(史学)。専門は日本古代史(奈良・平安時代)。著書「古代国家と年中行事」講談社2008年など。

古代日本では、大宰府が対外関係の窓口の役割を果たしていたことはよく知られています。律令国家は、唐・新羅等との交流を大宰府に一元化し管理しようとしていました。一方で、8～10世紀初

頭の北東アジアに存在していた渤海は、日本海を横断して北陸や山陰に到着しており、もう一つのルートを形成していたのです。9世紀には、東シナ海域で新羅や唐の商人の活動が活発化し、博多を中心に交易が拡大していきます。このような情勢の中、日本海側の地は、対外交流はもろろん、対外軍備の前線にもなっていました。渤海国滅亡後は日本海をはさんだ交流が断絶、博多を拠点とした貿易が拡大していきますが、中世後期(室町・戦国時代)には、日本海沿岸交通の発展や倭寇の活動を背景に山陰と朝鮮半島の交流が復活します。また、16世紀には博多の商人・神屋寿楨が石見銀山を発見し、その後、朝鮮から灰吹法を導入したといわれています。これは、日本海交通と朝鮮・東シナ海交通が、博多でリンクしたことを示しています。

# 第二部 特別講演

## 大国主命は医薬の神

前島根大学学長・島根大学名誉教授・特任教授

小林 祥泰

『日本書紀』によると、大国主命は少彦名神と共に国造りを行い、人間および家畜の病を治す医療を行ったと

あり、医薬の神ともされています。また、『古事記』には、二つ医薬の話があり、一つは有名な「因幡の白兔」の神話です。大国主命が医師として兔の外傷を蒲の穂で治療した実例が載っていますが、蒲黄には止血作用等があり、漢方の傷薬として現在も使われており、大国主命には医者への知識があった裏付けでもあります。もう一つは、大国主命が患者になった話です。大国主命自身が大火傷を負った際に、神産巢日之命が派遣したキサガイ姫とウムガイ姫が貝殻の粉と磨りつぶした身を調合し塗って治したというものです。山陰地方では、火傷の特効薬「八上薬」として今も伝承されていますが、主成分は貝に含まれるキチンキトサン等とカルシウムであり、現在火傷治療に使われている被覆材と類似しています。これだけの治療ができたということは、当時の出雲は医療の先進地だったと言えるのではないのでしょうか。



1946年島根県生まれ。慶応義塾大学医学部卒業。1993年島根医科大学内科学教授。2005年島根大学医学部附属病院長などを歴任。2012年島根大学学長に就任し、2015年3月に退任。

第二部 座談会

古代の出雲と九州、  
そして東アジア



鼎談者  
島根大学法文学部教授  
大日方 克己

九州国立博物館企画課長  
河野 一隆

島根大学法文学部准教授  
平郡 達哉

コーディネーター  
島根大学ミュージアム准教授  
會下 和宏

第一部の講演では、出雲と九州をめぐる交通・交流、そこから見えてくる特色が浮かび上がってきました。単に二つの地域の間だけではなく、海を舞台とした朝鮮半島や中国、南方など東アジア世界への広がりを持つ交流の二面も見えてきました。一つの地域、あるいは日本という枠に限定されない文化の形成を見ていくことが重要です。東アジア的視野と大きな時間的視野の中で、先史・古代出雲と九州をめぐる交流と歴史の特色について、第一部で講演いただいた先生方が語り合いながら、さらに掘り下げていきました。

最後に、出雲、九州、朝鮮半島の3地域における、環日本海・広域交

流の歴史の中での意義について先生方が意見を述べました。

平郡氏は、「三つの地域のつながりは、国家成立以降の関係が注目されるわけですが、ある日突然として交流ができるというわけではありません。古くは旧石器時代後期以降から、長く続く深いベースを基に交流がなされていることが重要ではないかと考えています。」とし、引き続き調査を続けていくと語りました。

弥生から古墳時代について講演された河野氏は、「この時代は、地域独自の交易から中枢が管理する交易へと移行していく段階だと思えます。ただ、そういった状況下でも地域間の交易は考古資料から見えて

くる。中央集権的な管理交易だけではない、地域史にも目をむけていく必要があります。」と今後の研究の方向性についても述べました。

大日方氏は、「律令国家の現実問題として、新羅の活動が日本海側に及び、渤海が日本へ来るという状況があり、各地域が独自に海外とつながりを持っていました。そのつながりというのは、東アジア全体に広がっています。」とし、東アジア世界の中で、出雲や北部九州が位置づけられているという視点で見る必要があると総括しました。

出雲・九州・東アジアの関係について、それぞれの先生方が専門とする時代で、さらに研究を深めていくというところで、座談会を終えました。



會下 和宏 (島根大学ミュージアム准教授)  
第二部「座談会」は、會下和宏氏のコーディネートで進行。



司会/石原 美和 (フリーアナウンサー)  
島根大学出身。元TSKアナウンサーで、フォーラム全体の司会を務めた。

# しまだいいCOC・オールしまねCOC+事業で さらに深まる大学と地域との連携

## 地域で活躍する将来を目指す COC人材育成コース第1期生が入学

平成28年4月、COC人材育成コースの第1期生53名が入学しました。同コースは、地域貢献人材育成入試を経て各学部に入學した学生が、学部の垣根を越えて集い、学ぶためのコースです。

コース生は学部での専門的な学びに加え、正課外のCOC人材育



1.地域貢献人材育成入試により入学したコース生たち。2.入学式後に行われたセミナーで交流を深めるコース生たち。



初めて出会う、将来の「志」を共有する場です。コース生たちは、コース概要の説明の後、カードに将来の志を記入し、互いに交換するワーク

成コースセミナーに参加します。地域で活躍するための知識や技術を修得するため奮闘するコース生の活動をお伝えします。

### ■コース生の「志」

4月5日に行われた入学式にあわせ、「COC入学セミナー」を開催しました。このセミナーは、コース生として大学生活を送る仲間たちと

シヨップを行いました。交換は学部の異なる4名と行いました。慣れない作業に最初は戸惑っていましたが、次第に打ち解け、活発に意見交換を行っていました。

最後は、「志30秒アピール」と題して、コース生一人ひとりが、全員の前で将来の目標を発表しました。「地域に先端医療を持ち込める医師になりたい」、「子供たちが地元を好きになる教育ができる教師になりたい」など、地域に貢献していきたいという熱い想いにあふれたスピーチを聞くことができました。

### ■ともに未来を考える

「COC未来づくりセミナー」は、定期的に開催されるコース生の学習の場です。平成28年度は8回予定されており、4月22日に第1回、5月20日に第2回を行いました。

第2回では、テーマを「学長と話



学長の話に耳を傾けるコース生たち。学長へ質問をする機会もあり、貴重な場となった。

そう」と題し、服部泰直学長を招いて、島根県の魅力やCOC人材育成コースの意義などを直接聞きました。コース生たちは、事前に「学長が考える島根県の魅力とは?」、「COC人材育成コース生に期待していることは?」などの質問を用意し、服部学長がそれに答えながらセミナーは進んでいきました。

コース生たちは、学長からの「COC人材育成コースで学べることで、卒業後に生かせることなどを自らどんどん考えて探していってほしい」という言葉に、より一層意欲を燃やしていました。

文部科学省  
地(知)の拠点

しまだいいCOC

文部科学省  
地(知)の拠点

オールしまねCOC+



## 地域を知る 人を知る

5月28日、29日の2日間、雲南市で合宿形式の「COCフレッシュマンセミナー」を実施しました。

これは、1年生がコース生として初めて地域へ出掛け、現場で地域の良さや課題を見つけ、学び、体験す



るためのセミナーです。「雲南市」及び「波多コミュニティ協議会」、「人間コミュニティ協議会」の全面的な協力の下、セミナーでは五つの行事を行いました。

行事1では、地域自主組織である波多コミュニティ協議会の活動について学びました。同協議会は、「はたマーケット」の運営という面白い物支援事業で全国的に知られています。

行事2は、自分自身の目で地域を捉えるためのまち歩きとワークショップ。コース生たちは波多集落を巡検した後、地域の方々と班をつくり、共に集落の「良いトコロ」を探しました。

地域の良さを見つける一方で、地域課題への理解も必要です。行事3では、「雲南市地域振興課」に講師をお願いし、雲南市の中山間地域問題とバイオマス事業について学習しました。これを受けて、行事4では2班に分かれ、竹林伐採と田植えを体験。コース生は慣れない



1.地域ガイドの方の案内で波多地区の街並みを見て回るコース生。それぞれに気づくものが違い、大きな学びの場となったようだ。2.竹林伐採体験。指導を受けながら、雲南市波多地区さえずりの森の竹林を、手鋸だけで伐採していく。

い作業に苦戦しながらも、地域の環境を保全していく大切さと難しさを学びました。

最後の行事5では、セミナーでの学びを振り返るとともに、今後コース生として地域にどのようなことができるかについて全員で考えました。五つの行事を通して、コース生たちは地域とそこに暮らし日々励む人々の重要さに気付くことができたようです。

COC人材育成コースでは、これからも授業やセミナーを通じて、積極的に地域についての学びを深めていきます。

## 参加学生の声

将来地元で福祉の仕事に就きたいので、地域とどう関われば良いか知りたくて参加しました

法文学部 社会文化学科  
北野 夏帆さん

自分の住む地域と、その他の地域との違いを学べたことが大きかったです。

教育学部 学校教育課程1類  
杉本 涼さん

大学進学で岐阜から出てきた私にとって、島根について知る良い機会となりました。

医学部 医学科  
片桐 崇将さん

語り継ぐ人がいて初めて地域資源が生きると思うので、人材育成が課題なんだと学びました。

総合理工学部  
数理・情報システム学科  
新屋 颯華さん

波多地区の古い街並みを地域資源としてどう活用するべきか考える良い課題が見つかりました。

生物資源科学部 生物科学科  
中野 美祐さん

## 様々な枠を超え、島根の未来を ともに育てる未来志向の地域連携

大盛況に終わった、昨年12月の「しまね大交流会」。

参加者からは、「学生に地元企業・NPOを知ってもらう良い機会になった」や、「もっと大学を超えて交流してみたい」、「出展・発信を通じて自分を取り組んでいる研究の社会的意味を再認識した」などの声が聞かれ、様々な情報が集積・交流する場の重要性を改めて認識しました。この「しまね大交流会」は、「学び」を軸に、さらに拡大して今年12月にも開催を予定しています。

全国的に取り組まれる地方創生。そのなかで地方大学が果たすべき役割は大きいといわれています。次に、「しまね大交流会」のような、これまでの地域連携の概念を超えた本学の取り組みについて紹介します。

### 地域イノベーション 育むための拠点づくり

イノベーション(革新)は今や技術革新のみならず、それにつながる私たちの考え方や価値観の革新をも

意味します。

今年3月には、「クリエイティブコミュニティを目指して」というセミナーを開催。セミナーでは、「技術革新から価値創造のイノベーションへ一人に寄り添うものづくりのあり方」と題した、オリイ研究所の吉藤健太郎所長の講演と、ミマルエンジニアリング石倉淳二氏によるIT・ものづくりの最前線に関する話題提供の後、参加者全員でクリ



1. クリエイティブコミュニティを育むための『場づくり』を考えるワークショップを行うセミナー参加者。2. 講演をするオリイ研究所の吉藤健太郎所長。

イティブコミュニティ(創造的な共同体)を育むための『場づくり』を考えるワークショップを行いました。



この『場づくり』は、今後オールしまねCOO+事業(本誌27号P1参照)の「しまねクリエイティブラボ ネットワーク」プロジェクトとして、本学構内に新たに設置するオープンラボ構想へとつながります。

### 地域を学ぶための 情報集積と活用方法

地方創生には、この地に関わる人がこの地を知り、学び続けることが必要です。本学ではこれまで、附属図書館が「貴重資料デジタルアーカイブ」として、学術的に価値のある地域の古文書等をデータ化・公開してきました。加えて、本学では平成26年度より地域に関する授業や各種シンポジウムなどの収録動画を公開する「地域学習支援ITシステム(下記参照)」を運用しています。

## 地域学習支援ITシステム 新着コンテンツ 配信中!!



<https://portal.lscrp.shimane-u.ac.jp/contents/50>

本学ホームページ Pickup Information  
「地域学習支援ITシステム」をクリック!

島根大学法文学部 山陰研究センターシンポジウム  
ホンモノの地方創生へ 一あらたな都市・農村関係への質的転換を求めて一

- ◆ 「グローバル経済下での地域再生のあり方を考える」  
岡田 知弘(京都大学大学院経済学研究科 教授)
- ◆ 「『6次産業化』は地域再生の切り札になるか」  
松原 豊彦(立命館大学 副学長・経済学部 教授)
- ◆ 「地域創生と創造産業(Creative industry)」  
中本 悟(立命館大学経済学部 教授)
- ◆ 「若者たちは何を求めて地方に集まるのか」  
保母 武彦(島根大学 名誉教授)

## 大学・企業・地域で育む 地域未来創造人材

地域連携といえは、これまでは大学がもつ専門知を活用するという側面から、研究を基盤とした産学連携が中心でした。これに加え、本学では「地域のひと・もの・こと」そのものを題材とした、地域資源や課題についての学び、地域や社会全体に対するアプローチを洞察する教育を学部間わず展開しています。現在、これら本学における教育面での地域連携をさらに強化し、地域のステークホルダーとともに人を育てる協働教育体制づくりを推進しています。

### 地域連携で学生を育てる 意識と理念の共有へ

近年、キャリア教育におけるインターンシップの重要性や意義が増しています。その受け皿として、地域のステークホルダーとの協働は不可欠となっています。

今年2月には、キャリアセンターと地域未来戦略センターが中心となつて島根県内企業とワークショップ

を開催し、地域に魅力ある人材を育成するにはどのような協働教育体制が望まれるのか議論しました。

このように、本学の学生がより学びの多いインターンシップを受けられるよう地域と学生教育の理念を共有していく「しまね協働教育パートナーシップ」の全学的な仕組みづくりに取り組み始めています。



「地域で魅力ある人材を育てるためにはどうすれば良いか」をテーマに、キャリアセンターと地域未来戦略センターとが中心となり行った、島根県内企業とのワークショップの様子。

## 地域の取り組みからの 要請に応える仕組みづくり

行政・企業・地域社会等が行う、地方創生に関する様々な取り組みにおいて、大学生の積極的な参加が求められています。それは従来のような人手確保のためではなく、学生らしい発想や企画等が期待されているためです。

地域の取り組みに学生が主体的に参画することは、地域の活力となるとともに、学生自身の成長にも有益です。そこで全学的にこのような取り組みを支援する体制整備を推進しています。

4月27日には、学生向けの説明会を開催し、次の四つの団体が企画への参加を呼びかけました。

### ●雲南市役所政策企画部 政策推進課

「雲南コミュニティキャンパス  
(UCC)プロジェクト」への参加

### ●松江だんだん夏踊り 実行委員会事務局

「2016松江だんだん夏踊り」  
プロジェクトへの参加者募集！」

### ●株式会社「畑トラベルサービス 商品事業部商品企画課

「旅行商品開発プロジェクト  
「オリジナルツアーを作成しよう」

### ●一般社団法人出雲青年会議所

「まちづくり事業  
「みんなで創る出雲の未来  
「魅力あるまち・住みよいまち」

説明会には意欲ある学生約30名が参加。それぞれに興味ある企画の説明を聞き、参加申し込みをしていました。

同様の説明会は、今年度後期にも開催する予定です。



地域の取り組みへ学生を受け入れるため手を挙げた4団体。それぞれに魅力ある取り組みが提案され、学生たちも真剣な眼差しを向けていた。

教育学部

# 子どもの社会認識 発達と形成の研究から 新しい社会科教育を

# 01



教育学部 副学部長  
附属教師教育研究センター センター長  
大学院教育学研究科

## 加藤 寿郎 教授

Kato Toshiaki

### 【専門分野】

教科教育学、社会科教育、生活科教育

広島大学大学院学校教育研究科修士課程修了後、地元島根へ戻り、小学校教諭に。現在は、子どもの社会認識の段階には発達的特徴があるのかなどについて研究を行う。

### 気になるキーワード

## アンケート結果を基に 教育現場で授業に反映

産業、町、生活…社会というものに対して、子どもの分り方(認識)はどうなっているのか?子どもの頭の中という分りにくい部分をアンケート調査で解明していき、実際の授業にフィードバックさせる。小学校教員を経験した加藤教授ならではの、教育現場を大切に研究。

## アンケートから導く 子どもたちの社会認識

学校教育の現場で行われている「論理」に基づく社会科教育に対し、子どもたちが頭の中で考えている「社会の捉え方」を解明するべく調査・研究を行い、そこで得られた成果に基づきながら「論理」と「心理」を統合した、新しい社会科教育の構築を研究テーマとする、加藤教授。

現実社会の仕組みを踏まえ、子どもはこの社会をこういふふうに分かっていくべき。という社会認識形

成の論理に基づく従来型の教育。「伝統的な教育だが、こればかりだと子どもの心理が置き去りにされているのでは?」と考えた加藤教授は、「子どもが社会をどう分かっているのか?という心理を調査し、そこで得られた【子どもの分り方】に即しながら子どもの社会認識を成長させる授業が作れないか」と独自の研究に着手します。

その取り組みの中心となるのが、小3から中3の児童・生徒を対象とした質問紙調査(アンケート)です。

例えば、「コンビニエンスストアとスーパーマーケットはどこか違うか?」のような問いに回答してもらい、その記

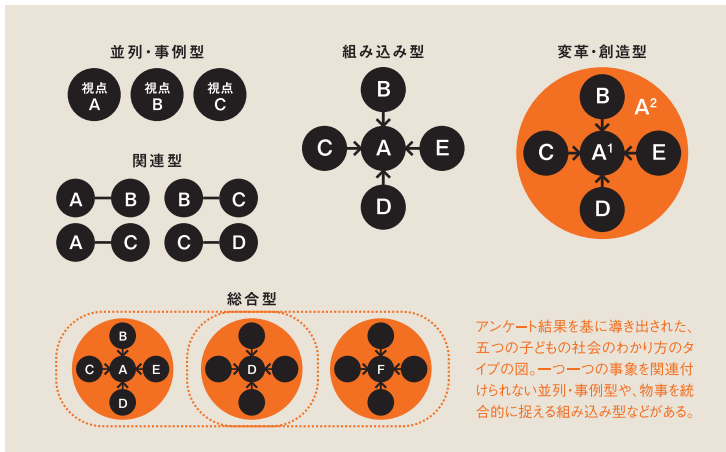


図1：子どもの社会のわかり方

入内容や、記入した順番などをつぶさに調査していきます。県内だけでなく、中四国エリアの現場の教員協力のもと、広い地域での学年ごとの回答を集計する横断調査と、1クラス40名を小3から中3の7年間追跡調査する縦断調査が行われています。そして、その長年におよぶ調査から、子どもの社会の分り方には五つのタイプ（※図1）があり、小学校4・5年頃を境に転換期を迎える傾向があることが分かってきました。



鳴門教育大学附属小学校で行われた授業検討会で、「子どもの社会的な見方・考え方を育てる社会科授業」について、教員向けに話しをする加藤教授。

一方、こうした調査結果を実際の教育にどう反映させていくのが、研究の次のステップ「形成（授業）」その具体的な例として、調査で明らかになった子どもの認識の弱い部分に働きかけながら、子ども

## 教育現場と教職大学院 協力関係で授業を作る

この転換期を「扇の要」に喩える加藤教授。「並列・事例型（※図1）のように、バラバラに捉えていた要素が関連付けられるようになり、扇の要部分のような、社会を捉えるより本質的な視点が見えてくる。それが小学校4・5年あたりで顕著に表れます」。



教職大学院での、加藤教授をはじめ教員と学生が一緒になって授業を行う様子。

もの社会認識を育てる試みがあります。

「店（産業）に関する調査の結果、小3から中3まで全ての学年で、実際の産業にとって重要な「立地」の認識が一番低いという結果が出ました。そこで、組み込み型（※図1）の中心にあらかじめ「立地」を置き、他の要素を関連付けていくような学習を行うと、子どもの発達に合わせながら、さらに社会認識を引き上げていけるのではという試みです。こういう授業の展開は今までとはまったく違うものと言えるでしょう」。

このような教育現場との連携は

今後も行っていくとのことですが、本年度6月からは島大附属中学校3年生の社会科授業に、この発達研究に基づいた内容が取り入れられるなど、研究の目的である「形成」への具体的な取り組みも活発になってきました。

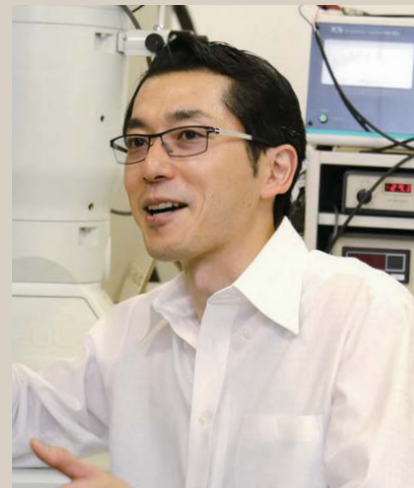
さらに、加藤教授自身も専任教員として関わる「教職大学院」との連携にも意欲的で、「本年度新設された教職大学院は、現職教師や学部からの院生を対象とした、スクーリングを養成する専門職大学院です。この高い意識を持った教育関係者が集まる場所で、こちらが一方的に教えるというよりも、情報提供しながら一緒に取り組んでいけたらと思っています。特に現場の先生の経験値というのは、アンケートでは見出せない優れた部分があり、そういった経験を聞きながら、今後の研究に反映していけたら」。

教える・教えられるの関係ではなく、「情報を共有して一緒に取り組む」という姿勢は、自身の研究のみならず、島根大学教職大学院が目指すべき姿でもあると加藤教授。研究共々、これからの展開が楽しみです。

総合理工学研究科

# 核融合炉における プラズマ・壁相互作用の マイクロな研究と分析

危険なウラン燃料を使わず、二酸化炭素も排出しない。しかも海水を燃料に安定的なエネルギー供給を可能とする、夢のエネルギー「核融合」発電。この実現に向けて研究開発が進むなか、その一端を担う、核融合炉の壁材料の研究に打ち込む、総合理工学研究科の宮本光貴准教授にお話をうかがいました。



大学院総合理工学研究科

## 宮本 光貴 准教授

Miyamoto Mitsutaka

### 【専門分野】

プラズマ表面相互作用

九州大学大学院にて、総合理工学府先端エネルギー理工学を専攻し、博士後期課程を修了。核融合炉の極限環境に耐えうる材料の表面変質に関する研究や開発を行う。

### 気になるキーワード

## 地球上にある太陽 『核融合エネルギー』

1グラムの燃料(水素)から、約100万リットルの水を沸騰させるほどの大きなエネルギーを発生する核融合反応はまさに人工の太陽。そんな強大な力を安全に包みこむ炉(壁材料)の研究と、その簡便な診断手法の開発が宮本准教授の取り組む課題。

### 次世代エネルギーとして 期待のかかる核融合発電

化石燃料の枯渇や、二酸化炭素増加(地球温暖化)等、地球規模の問題に直面する現在、「経済発展、環境、資源という二つの問題がせめぎ合う危機的状況が迫りくる中、それらを解決するためにも安定したエネルギーの確保および供給が大きな課題」という、宮本准教授。

火力、風力、太陽光など、各分野で次世代エネルギー開発が進められる中、宮本准教授が取り組む

のが、そうした次世代型基幹エネルギーのひとつとして期待される、核融合発電の実用化を目指した研究です。

大きな原子核が小さな原子核へと分裂していく反応をエネルギーに変換する原子力発電に対し(核分裂)、原子核同士が融合して大きな原子核を作る反応をエネルギーに変えるのが核融合です。震災以降、大きな問題になっている原子力発電に比べ、核融合による発電には、コスト面や安全性等、さまざまなメリットがあると、宮本准教授は続けます。

「原子力発電同様、大規模なエネルギーを安定的に作り出せる核



2012年、ドイツのアーヘンで開かれた国際会議で、自身の研究について発表する宮本准教授。

融合ですが、原子力で大きな問題になっている高レベル放射性廃棄物を出しませんし、地球温暖化の原因となる二酸化炭素も生じません。さらに燃料となる重水素は海水中に無尽蔵にあります」。

エネルギー変換での暴走の心配もなく、唯一使用される放射性物質・トリチウムも融合炉施設外へ放出されない構造が確立されており、核融合エネルギーが実用化されれば、地球上すべてのエネルギー問題がすみやかに解決するといわれています。

## 微視的観点で取り組む 極限環境を模した実験

核融合に関する研究開発の中でも、宮本准教授が進めているのが、核融合反応を発生させる炉内の材料開発です。

「核融合発電を実現するために、高温×高密度×閉じ込め時間（核融合の三重積）」が必要不可欠。炉内のプラズマは1億度から10億度に達するため、それに対向する壁材料の研究も重要で、私が担当するのは、その材料に関する分析・研究になります」。

例えるならば、「氷のカップで温かいコーヒーをいかに美味しく飲む



カリフォルニア大学サンディエゴ校にある、直線型プラズマ発生装置内での実験風景。人体に吸入されると毒性を示すベリリウムを利用するため、防護服が欠かせない。



宮本准教授の研究室にある、世界的にも珍しいイオン照射装置直結型電子顕微鏡。高エネルギー粒子線照射下で起こる材料内部での特性変化を、ミクロな観点から観察できる。

か？への取り組み」と続ける宮本准教授。

「そのままでは氷が溶けてコーヒーも冷めてまもなくなくなります。それと同じで、高温のプラズマと炉材料が相互作用してほしくないわけです。しかも、高温のプラズマから高エネルギー粒子が飛んでくる過酷な環境下、炉の構造は守らないといけない。つまり、構造材としての機能や強さを保持しつつ、発生したプラズマに悪影響を与えない材料を作り出さなければならぬわけです」。

この「核融合炉におけるプラズマ・壁相互作用」と呼ばれる課題に対し、電子顕微鏡などを使った微視的（ミクロ）な観点から様々な材料

の変化を観察していくのが、宮本准教授のアプローチです。

「超高温、高エネルギーのイオン粒子を試料に照射する、いわば地球上の物質が初めて曝される極限環境下、材料がどう変化していくのか？その劣化状況や、燃料となる水素が材料の中にどれだけ吸収されるか？を照射条件や試料を変えて観察、分析していきます」。

材料に関しては、国内では扱える研究室の少ない、注目の素材ベリリウムを安全に扱える設備を整えるのも、宮本研究室の大きなアドバンテージです。また、通常は大きがかりとなる分析作業を炉内で簡便に、しかもリアルタイムでおこなえる手法の開発も、宮本准教授の大きな取り組みになっています。

仏・カダラッシュに建造中で、2020年には運転開始予定という大型核融合実験施設・ITER（イーター）計画に代表されるように、実用化に向けた世界的プロジェクトが活発化してきた核融合発電。宮本准教授の研究は、地球の未来に直結するものとして、大きな期待がかかっています。

島大生発！ 島根の魅力を県外へ

# ひろしま フラワーフェスティバル出展



1.多くの来場者で賑わう島根大学ブース 2.大学の研究などもまとめられたパネル展示・クイズは3日間を通して行われた 3.「しじみストラップ作り」は子どもに大好評！ 4.島根大学本庄農場で作られたジャムやお茶も販売 5.広島大学ブースでしまねっこダンスを披露！ 6.多くの人が行き交うメイン通りでPRするスタッフ

今年で40回目となる広島最大級のイベント「ひろしまフラワーフェスティバル」が、5月3日～5日の3日間に渡って開催され、多くの来場者でにぎわいました。島根大学は3年連続でブースを出展し、様々な切り口から島根の魅力を発信しました。

## 企画から運営まで学生が主体 試行錯誤し島根の魅力を発信

全国から多くの人が集まるイベントで、島根県及び島根大学をPRし、認知度の更なる向上を図ることを目的に、島根大学はブースを出展しました。今年は、昨年以上に学生が主体となってイベントを企画・運営しました。本学のブースには、3日間で延べ約2300名もの来場者があり、島根大学の研究に関する展示パネルを閲覧したり、学生と交流を深めるなどしていました。企画・運営に携わった学生たちは、この活動を通して、島根の魅力をどのような切り口で伝えていけば良いかを主体的に考える力や企画力、そして運営に際して、状況に応じて対応する力を身に付ける良い機会となりました。

今年、「観光」「自然」「文化」という二つのテーマを設定し、3日間にわたって異なる催しや取組みを通じて、島根の魅力をPRしました。

## 三つの側面でアピールした 魅力たっぷりの島根の姿

あいにくの雨となったフェスティバル初日は、「観光」をテーマとした催しが行われました。パネル展示やクイズ、玉造温泉成分の入った石鹸を使った泡立て体験、大田市仁摩町の「鳴り砂」に触れる体験など、見て触れて楽しめる県内観光地のPRを行いました。続く2日目は、島根の「自然」をテーマとしたパネル展示・クイズ、宍道湖で獲れたシジミを使ったストラップ作りなどを実施しました。特にストラップ作りは、小さなお子さんを中心に人気で、全国屈指の湖を存分にPRしました。最終日は、出雲大社や松江城といった「文化」に焦点をあてたパネル展示とクイズで、全国的に注目を浴びている文化遺産のPRを行い、来場者の目を引いていました。

そのほか、昨年も実施した広島大学との合同スタンプリーや、島根大学オリジナルジャムの販売など、島大生たちが精力的に活動し、多くの来場者とふれあう場面が随所で見られるイベントとなりました。



観光

チームで物事にあたる  
貴重な経験ができた

今回初めて参加しました。1日目の「観光」を担当し、班のみんなで話し合い、『玉造温泉』と『サンドミュージアム』に絞ったPR展開にしました。私は主にパネルづくりを受け持ちましたが、色々と調べてパネルをつくりました。でも、「こんな特徴がありますよ」という説明だけでは、当然、魅力

は伝えきれないので、サンドミュージアムへ直接交渉に行く担当も班の中で決めて、「鳴り砂」に触れる体験ができるように様々な工夫をしました。チームで協力した今回の経験は自分にとってもとてもプラスだと思っています。



教育学部2年  
恩田 真衣さん

自然

今回の企画・活動の  
経験を生かしたい

昨年が続いて参加し、今年は全体のリーダーをしました。本当に今年は今まで以上に有意義な活動になったと感じています。昨年までの3日間同じ展示をする手法から、ガラリと変更して正解だったと思います。私は「自然」を担当しジジミを使ったストラップ作りの体験では、班のみんなで漁師さんに

ジジミを貰いに行ったり、買って食べて殻を用意したり、体験いたたくデコレーションを考えたり、様々な工夫をしました。こうしてお客さんと直接関わることを企画した経験を生かし、今後も様々な活動に積極的に携わりたいです。



生物資源科学部2年  
平田 守鵬さん

学生体験レポート

学外での出会いと学びが  
学生たちの成長の糧に



イベントに参加した  
学生の生の声は  
こちらから!!



文化

古典文学も生かした  
魅力発信をしたい

文化班のリーダーを担当し改めて島根を好きになりました。学部の勉強で古典文学をやっていることもあり、しっかりと伝えるために文化的魅力を深く調べる中で、歴史の深さに感動すら覚えました。それに、岡山県出身の私は入学と共に島根県に来て、地域に活力を生む活動がとても盛んだと感じてい

ます。それも島根県が好きなのイベントです。歴史の深さ、未来に向けた活力、島根県はどちらも素晴らしいので、学んでいる古典文学も生かしながら、島根の良さをもっと多くの人に知ってもらえる活動に今後も携わってきたいと思います。



法文学部3年  
松岡 夢乃さん

他大学スタッフの声

大学の枠を超えて  
積極的な交流ができた

昨年は島根大学さんを含め、4大学の共同でスタンプラリー企画を行い相互にPR活動をしていましたが、今年は少し趣向を変えて「ひろしまねクイズラリー」と題して、島根大学さんとコラボさせていただきました。お互いの大学や地域の魅力を発信し合える良い機会にもなり、参加者も多く、やはり

交通の便が年々良くなり、広島に暮らす人たちにとっても島根はどんどん身近になっているのだと思います。今回はこちらのブースで「しまねっこダンス」をしていただくなど、深い交流ができました。今後こういったイベント以外の機会でも交流させていきたいです。



広島大学 総合科学部3年  
妹尾 心さん



様々な想いを胸に、新たな世界へ

# 島根大学学位授与式レポート



3月14日、25日の両日、平成27年度島根大学学位授与式が挙行されました。今年度、松江キャンパスでは合計1,158名、出雲キャンパスでは217名が本学を卒業・修了しました。

服部学長から学位記授与、式辞に続き、溝口島根県知事からの御祝辞を賜り、学生からは島根大学で学んだことを糧として社会に旅立つ若人としての決意が述べられました。その後、本学合唱団による島根大学学歌「天高く」などが演奏され、卒業生の門出をにぎやかに祝いました。

## Interview!

### 卒業生にインタビュー!

- Q. 学生生活を振り返っていかがですか？
- Q. 将来の目標を教えてください。

## Answer!

社会福祉コースでは、今まで考えたことのなかったような社会の問題や課題に目を向け、考えるきっかけを沢山いただきました。また、その学びを通して自分を見つめ直すことができたのが大きな収穫でした。4月から県内の高齢者施設で働きますが、この施設にいて心地良いと感じてもらえるような働き方・環境作りをしていきたいです。

大学の  
学びを生かして  
喜んでもらえるような  
働き方をしたい!



吉田 彩乃さん  
(法文学部 社会文化学科)

## Answer!



多くの人に助けられ  
励まし合いながら  
成長できた4年間

松尾 太勇さん  
(教育学部 数理基礎教育専攻)

大学生活を振り返って、「生付き合える友人に出会えた」ことが一番の収穫でした。ともに学んだ同級生や、課外活動で一緒に汗を流した友人は、今ではかけがえない存在です。卒業後は、まず教員採用試験に向けて勉強に励みます。親身になってくださった先生方のように、私も優しさ溢れる、心からの真摯な指導ができる先生になりたいです。

Answer!



大学での学びを忘れず  
さらにスキルアップして  
地域医療に  
貢献したい

有福 佑さん  
(医学部 医学科)

知識や技術的なことはもちろん、医師として働くこととはどのようなことなのか、その姿勢を学ばせていただきました。私は地域枠推薦入試で入学しましたが、高齢化が特に進むこの島根県で、地元貢献したいという想いが強く、それは今でも変わりません。卒業後は様々な環境で経験を積み、最終的には地元益田に戻り、地域に貢献していきたいです。

Answer!



患者さんに寄り添い  
安心感を  
抱いてもらえる  
看護師になりたい

宮脇 悠里さん  
(医学部 看護学科)

基礎から実践まで先生方に丁寧にご指導いただき、充実した4年間でした。中でも大変だったのが実習でしたが、実習を通して看護師として患者さんとのコミュニケーションがいかに大切かを学びました。卒業後は医学部附属病院に勤務します。どんなに忙しい時でも「患者さんに寄り添う」という自分の役割を忘れないように、頑張っていきたいです。

Answer!



大学生生活で培った  
主体的な行動を  
仕事でも生かしたい

日置 達矢さん  
(総合理工学部 物質科学科)

島大には、専門的に詳しく学べる環境が整っています。連日夜遅くまで実験したり、苦しいことも沢山ありましたが、今となつてはすべてが良い思い出で、自分の糧になったと感じています。卒業後は、三重県に戻り、化学の専門知識が必要な技術職として働きます。4年間で学んだことや、主体的に動くことの大切さを忘れないように働いていきたいです。

Answer!



島根大学での  
生活はもっと学びたい  
という想いを  
強くしてくれた

都筑 麟さん  
(生物資源科学部 農林生産学科)

私はもともと国際関係に興味があり、学部での学びと、課外活動「国際協力系サークル」の内容には大変つながりがあつて、充実した4年間になりました。大学生活を通して、「もっと学びたい」という想いが強くなり、4月からは東京農工大学大学院へ進学します。そんな気持ちにさせてくれたことが、島大に来て本当に良かったと感じるところです。

# 世界へ広がる 世界とつながる

International exchange of Shimane University

FROM



出身校

東北林業大学

(中国)

蔣文龍さん

(在籍: 法文学部 3年)

世界21か国、61の大学と交流協定を結んでいる島根大学。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、また、多くの留学生も海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験についてお話をうかがいました。

## 世界を広げてくれた 日本で出会う人・文化

私は、高校生のときに見た日本の漫画やアニメがきっかけで日本に興味を持ちました。大学では日本語学科で2年間学び、大学が島根大学と交流協定を結んでいたこともあり、3年生の秋に交換留学生としてきました。日本語を学んでいても、実際に話すことは本当に難しく、はじめはほぼ理解ができませんでした。それが逆にこれからの勉強への意欲に変わりました。日本で多くの人や文化に触れ、私はより広い世界を発見できました。自国にいるままでは、国によって違う習慣を知ること、また、実際に体験することも出来なかったと思います。日本についてもっと深く知るために、今後は必ずまた戻り、次は大学院という新たな学びの場に挑戦したいです。



1.

1.他の留学生と共に飯南町へ行き、田植え体験やパーベキューを通して地域の方との交流を深めた。  
2.「日本事情A」の授業で茶道について学び、明々庵で茶室見学を行った。



2.

TO



留学先

## フロリダ大学 アメリカ



石川 絵美子さん  
(法文学部 4年)

### シビアナな環境が 自らを成長させた

私にとって留学とは、「自分を高めるためのチャレンジ」です。1年生の時に様々な人種の人たちと出会い、国際文化や考え方に触れたいと思い、アメリカのフロリダ大学に短期研修に行きました。日本に戻った後も、フロリダでの経験が忘れられず、切磋琢磨できるような環境でもっとチャレンジしたいと思います、3年時に長期の交換留学で再びフロリダ大学を訪れました。授業はディスカッションが多く、相手の意見を聞くこと、自分の意見・主張を的確に伝えることの大切さを学び

ました。また、各国の人が集まるため、様々な視点を得られたことも収穫です。留学を終えた今では、どんな土地に行っても頑張っていけるという自信ができました。将来は、海外生活で培った英語力と国際力を生かせるような仕事に就きたいと考えています。



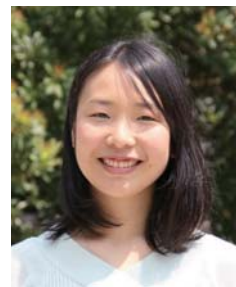
1. ホームレス支援ボランティアの準備風景。食料品などをホームレスの人たちが暮らすキャンパスまで届けます。2. 仲の良かった友人の卒業時、UFのアムフトスタジアムにて集合写真。

TO



留学先

## トリリア大学 ドイツ



澤田 悠里さん  
(法文学部 4年)

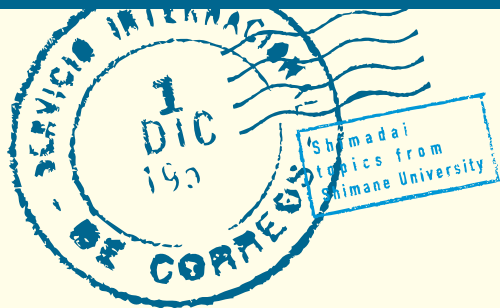
### 多様な価値観に触れ 自分の視野が広がる

私はドイツ文化専攻で、前から留学したいと思っていました。2年生の時、トリリア大学で「国際サマースクール」参加の募集を知り、すぐに自分で申込み、3年生の夏休みに約1カ月ドイツに行きました。サマースクールには各国から約100名が参加し、私のクラスの授業はすべてドイツ語で、講義とスピーキングの両方を毎日行いました。他国の学生には、まったく別の分野を専攻しているのにドイツ語がペラペラな人も多く、レベルの違いにショックを受けました

が、その悔しさがもっとスキルアップしたいという力になったと思います。「留学＝語学力を磨く」という印象が強いです。多様な価値観・考え方に触れ、「自分の視野が広がった」ことも大きな糧になったと思います。迷っているなら、ぜひ、世界に飛び出してみてください。



1. 留学中には、各国の学生が自国の料理を振る舞うパーティーも開催。十数ヶ国の料理を楽しみました。2. 同じサマースクールに参加したメンバーたちと。



大学のホットな情報をお届け

# しまだい便り

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から、大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えます。



## 1507名が新たな学生生活をスタート 平成28年度島根大学入学式を挙

平成28年度島根大学入学式が、4月5日、「くにびきメッセ」において挙行されました。本年度は、全学部・大学院合わせて1507名が、期待に胸躍らせて新たな学生生活をスタートさせました。式では、はじめに服部学長が新入学生全員の入学許可を宣言、続いて式辞を述べました。

式辞の中で服部学長は、「皆さんには、幅広い教養と視野を持ち、高度な専門知識と技能、確かな実践力、そして、柔軟な発想力を持って、地域や世界各地で活躍できる能力を身に付けていただくよう願っています。」と述べ、その言葉を受け取った新入生の表情は、それぞれに決意を新たにしているように見えました。

その後、新入生を代表して法文学部の澤田ルナさんが大学生活への希望と誓いを述べ、溝口島根県知事の祝辞も藤原副知事から披露されました。

最後は、教育学部音楽教育専攻と混声合唱団による学歌「天高く」などの合唱で、入学式は終了しました。



## 「しまね大学発・産学連携ファンド」第2号！ 「株式会社なかうみ海藻のめぐみ」設立

島根大学発ベンチャー「株式会社なかうみ海藻のめぐみ」の設立記者会見が、境港市役所で行われました。同社は、中海の環境修復のために刈取られた海藻類を肥料化し、農地還元する事業を展開。製品開発に本学の松本教授の研究成果が活用されています。中海の環境修復に資すると共に、地域で発生した資源を共同研究により有効活用を図る本事業の今後の展開が注目されます。



## 障がいのある学生への支援体制を強化 「障がい学生支援室」を設置

平成28年4月より施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」にあわせて、4月1日、学内に「障がい学生支援室」を設置しました。支援室には、専任教員、コーディネーターなどが常駐し、障がい等により修学上困難を抱える学生の相談（入学前相談、修学相談、就職相談等）に対応します。今後は、障がい学生のサポートができる学生の育成にも力を入れていく予定です。

地元においても中々知らない大学のこと。改めて広報誌の必要性がわかりました。

(島根県松江市・60代女性)

各学部の学生さんの活動の様子をもっと知りたいです。

(島根県安来市・50代女性)

大学が多岐にわたって前進されていることがよくわかって良かったです。

(島根県隠岐郡・50代女性)

大学×島根で発信

## 魅力伝える大学プロモーションビデオ制作中！

5月26日、島根大学のさらなる認知度アップを目的に、島大をPRするプロモーションビデオ「島根大学 meets official 髭男 dism “SWEET TWEET”」の撮影を行いました。松江キャンパスをはじめ、出雲大社や松江城など、主要な観光地で撮影を実施しました。

映像内では、島根大学と松江高専の卒業生で結成された4人組バンド「official 髭男 dism」と、島根県観光キャラクターである『しまねっこ』が共演。

松江キャンパスでは、正門からはじまり、メイン通りや大学ホール、学生市民交流ハウスで演奏の様子を撮影しました。中でもメイン通りの撮影では、本学学生がエキストラとして出演。official 髭男 dismの曲に合わせて体を動かし、映像に華を添えました。

久しぶりの母校となった official 髭男 dismのメンバーは、在籍していた軽音楽部の後輩や、本学職員との再会に笑顔を見せていました。  
気になるプロモーションビデオは7月公開予定です。



行方不明のお年寄りを保護

## 本学学生に感謝状が贈られました

4月21日、松江警察署において、行方不明男性を保護した、本学教育学部2年・内久保大希さんに感謝状が贈られました。4月2日深夜、内久保さんは松江市北田町の県道で動けなくなっていたお年寄りを発見、声をかけて保護した上で、松江警察署へ通報し、事件・事故の未然防止に協力しました。感謝状を受け取った内久保さんは「事故に遭わず、無事でした。ありがとうございました。」と振り返りました。



新たな広がりを見せる国際交流

## コーチ理工大学と大学間協定を締結

5月24日、島根大学は新たに、インド・コーチ理工大学と大学間交流協定を締結しました。今回は、本学生物資源科学部とコーチ理工大学との間での、『ラマン分光法の医療応用に関する研究交流』が契機となっており、本協定の締結により、これまでの理工学部系の研究交流に加え、地域の中核大学が連携することで地域課題解決に向けた研究協力関係の拡充も期待されています。



### 読者の声 Voice

広報しまだい vol.28に  
寄せられた声をお届けします。

市民パスポート会員になって2年目。  
公開講座にもとんとん参加したいです。

(鳥根県大田市・60代男性)

出雲に住む者として、最新医療  
研究への取り組みのニュースが  
心強いです。(鳥根県出雲市・40代男性)

# しまだい Active

SHIMADAI + ACTIVE

学業はもちろん、部活や大学行事、学内イベントなど、学内外問わず様々な場面で活躍する島大生。そんな学生たちの気になる活動を紹介します。

## 学生目線で伝える大学の「今」 島大生のためになる情報発信

### 活動内容は幅広く 学内情報なら島大新聞

「元々は、2013年6月に、  
大学と山陰中央新報社との間で  
結ばれた、産学連携による人材



発足当初からのメンバーである、福島達也さん(右:法文学部4年)と金崎智さん(左:総合理工学部4年)。

育成を目的とした包括連携協力協定によって発足したのが始まりになります。」と話するのは、福島達也さんと金崎智さん。大学の取り組みや学内行事、学生活動など、学内で起きた出来事について、学生目線でわかりやすく伝える「島大新聞」。その取材や撮影、編集といった、作業を行っているのが、彼らが所属する「学生プレス研究会」です。

現在、4年生4人と、3年生・2年生各1人の計6人で活動している彼らの活動は、学長や大学

## 今回紹介するのは… 学生プレス研究会

学生プレス研究会

### 島大新聞制作の流れ

#### 1 ネタ探し

メンバーそれぞれが、次に自分が掲載したいと思うニュースを探し、情報を収集。



#### 2 編集会議

それぞれが掲載したいと持ち寄ったニュースを全員で確認。誰がどの取材を行うのか。また、どのニュースがトップになるのか、重要度を考え、序列を決める。



#### 4 記事作成

取材した内容を原稿に起こし、記事を作成。取材した内容を自身で噛み砕き、読者に伝わりやすい文章を心掛けながら作成。



#### 5 レイアウト決め

各取材担当者が作成した記事を見ながら、どの記事を紙面のどこに配置するかを考える。複雑過ぎて伝えたいことが伝わらなくても、番号同じ配置になってもいけないため、担当者は頭を悩ませながら配置を決める。



島根大学の「今」がよく理解できました。  
(島根県松江市・60代女性)

大学が地域の身近な存在であることがよくわかり、広報の重要性も感じました。(島根県出雲市・60代男性)

参加型のイベントを企画すれば、大学と地方の結びつきがより高まると思います。(島根県出雲市・70代男性)

公開講座で大人になってから受ける講義は、知的好奇心を満足させてくれます。  
(島根県松江市・50代女性)



教職員へのインタビュー、入学式、卒業式など学内行事の取材といった自発的なことから、学長秘書室やサークルからの依頼を受けての取材など幅広い。そうして得た情報を、島大新聞の記事にまとめ、学生と同じ目線で伝えることで、興味を持ってもらえるような情報発信を心掛けています。

## 学生のための情報で盛り上がるきっかけに

活動にあたって最も大切にしているのは、「学生のためになる情報を発信すること」。「知っているれば役立つ情報や必要な情報を見逃している学生って、結構多いと思うんです。そうした部分をピックアップして、少しでも周知できるように情報を発信する、それが私たちの役割だと思っています。」と金崎さん。「逆に、発信したいことがあるけど手段がない、方法が分からない人たちが

いれば、ぜひ学生プレス研究会を使ってもらいたい。大学全体を盛り上げるためのツールになりたいです。」と、福島さんも続けます。

自分たちの活動が大学を盛り上げるきっかけになればと話す2人。最後に、「読んでくれた人の記憶に少しでも残るような記事を作りたい。きっかけは何であれ、読んでもらえることが一番なので、まずは目をひくものを作ることを心掛けたいです。」と、今後の想いを語ってくれました。

学生プレス研究会が発信する  
「学生活動紹介」は  
次号よりスタート!!



お楽しみに!

### 3

#### 取材

基本的に2人1組で行う取材。取材担当と撮影担当とで役割分担をし、取材にあたる。やむを得ず1人で行わなくてはならない場合は両方を兼任することも。



### 紙面完成

### 6

#### 発行・掲示

主には学内掲示板への掲示。そのほか、サークルのポストへ投函したり、食堂や学内各所へ置いてもらうなどして、学生たちの目に触れていく。



できました!!

荒れた森林を元気にしよう!  
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなを  
まもろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎  
神在の里 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産された  
サツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」  
●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3,200円(税込)

島根大学生協同組合  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240  
http://omise.seikyou.jp/shimane

新報の折込みで WEB サイトで フリーペーパーで  
お仕事見つかる  
メリット

求人情報  
メリット  
鳥取・島根のおしごと探  
Webメリット  
鳥取・島根のおしごとサーバー

株式会社メリット  
松江市古志原5-2-43  
TEL.0852-23-1749

#### 読者の声 Voice

広報しまだい vol.28に  
寄せられた声をお届けします。

本庄農場で育てられている  
農作物についてもっと知りたいと  
思いました。(鳥根県松江市・40代女性)

# しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

地域活動サークル

## ACT

(アクト)



1.県内・県外出身者それぞれの目線で島根の良さを伝えるACTのメンバー。2.学園通りのイベントでは依頼を受けてブースを出展。地域の子どもたちとも交流を深めた。

## 活動を通じて島根の人や地域の素晴らしさをPR

学生目線の地域貢献を展開する「地域活動サークルACT」。地元島根出身のサークル代表・梅木太郎さんは、「他県出身学生は島根に対してマイナスイメージを持っていることが多いので、地元出身の僕としては、この活動を通じて、学生にも島根の良さもアピールしていきたい」と熱く語ります。そんな活動の内容もユニークで、特に一芸に秀でた島根県人を招いての「新晩春かくし芸大会」はメディアに取り上げられるほどの好評を得ました。その他、雲南市桜まつりや松江市学園通り商店組合での子ども向けボランティアなど活動も多種多彩。今後も島根で頑張る人にスポットを当てる企画が盛りだくさんのようです。



## 学生ならではのスタンスで地域医療に向き合う

島根県にとって重要なテーマである地域医療問題について、医学部学生ならではのスタンスで活動に取り組む「地域医療研究会」。日頃の活動はディスカッションが中心ですが、毎年8月には実地研修があり、近年は中山間地診療所（浜田市）での研修合宿が恒例です。現地ではサークルOB医師の指導のもと、在宅医療の現場体験や、患者さんの声を直接聞いたり等、地域とのふれあいを大切にしたフィールドワークを精力的にこなします。また、これまでフィールドワークのみの活動でしたが、今年は学会（日本プライマリ・ケア連合学会）での研究発表も行い、その成果を地域へフィードバックさせていきたいとのこと。

出雲キャンパス

## 地域医療研究会



1.地域医療研究会のメンバー。他部とのかけ持ちメンバーも多いが、現在は40名前後が在籍。2.中山間地域での研修合宿中、夜はメンバーが集まって勉強会が行われる。



島根大学はスサノオマジックを応援しています!

## NBL・TKbjリーグが統合! 始まるBリーグ元年

西地区3位で昨シーズンを終えた島根スサノオマジック。過去最高タイの成績を取った彼らの来シーズンの戦いはすでに始まっており、次なる戦いの場は、本年9月より始まる、新しいプロバスケットボール「Bリーグ」。

従来の2つのトップリーグ「NBL」「bjリーグ」が統一された新リーグである。

Bリーグは、サッカーJリーグ同様に、Bリーグ加盟全35

チームをB1・18チーム、B2・18チーム、B3・9チームの3つのカテゴリーに階層分けを行い、島根スサノオマジックはBリーグ事務局によって初年度はB2に所属することとなった。しかし、昨季の島根はBリーグ1部(B1)チームでもある、浜松(昨季西地区4位)滋賀(同5位)大阪(同6位)より上位の西地区3位の成績を取っている。このことから、島根スサノオマジックの今季のB2での戦いはB1昇格をかけたすべてがサバイバルゲームとなる。

そして、5月には早くも島根スサノオマジックで戦う意思を固めた2名の選手と契約を交わした。いずれの選手も島根スサノオマジックのスター選手である。この2選手を中心にした新生スサノオマジックは早速9月初旬のプレシーズンゲームでヴェールを脱ぐ。

よこお たつひろ  
**横尾 達孝**

ポジション SG(シューティングガード)

1985年2月28日生 186cm/83kg

愛知県日進市 出身

萩山中→洛南高→明治大→日立サンロッカーズ

- bjリーグ2010-2011シーズン ドラフト全体1位選手
- bjリーグ2015-2016シーズン 3ポイント王

★大学卒業後、NBL日立サンロッカーズでプレーも2010年春・bjリーグドラフト会議にて島根が全体の1位で指名し入団。1年目よりジェリコHCのもと高いシュートセンスで石崎と並び2人の日本人スターとして活躍(当時は外国人3人がコートに立っていた)。昨シーズンはbjリーグ3ポイント王に輝き、名実ともに島根スサノオマジックのスター選手に。



おかもと ひりゅう  
**岡本 飛竜**

ポジション PG(ポイントガード)

1993年4月20日生 170cm/70kg

鳥取県米子市出身

東山中→延岡学園高校→拓殖大→島根スサノオマジック

- bjリーグ2010-2011シーズン ドラフト全体1位選手
- bjリーグ2015-2016シーズン 3ポイント王

★高校時代には延岡学園高校にてインターハイ、国体、ウインターカップ優勝の高校3冠メンバーとして活躍。拓殖大ではインカレにて準優勝。そして2016年2月より、アーリーチャレンジ制度で大学4年生ながらスサノオマジックでプレー。大学も卒業し、いよいよ本格的にプロバスケットプレーヤーとしてのシーズンへ。華麗なドリブルスキルに高い俊敏性。そして相手に仕事をさせないハードなディフェンス。新たなスサノオマジックの顔となるか?



島根スサノオマジックの最新情報は...

島根スサノオマジック公式HP <http://www.susanoo-m.com/> 島根スサノオマジック

お問い合わせ先 島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866(平日10時~18時)

### 島根大学支援基金寄附者一覧

ご協力ありがとうございました。

#### 個人からのご寄附

雄 正寿 池 昭二 小川茂幸 小田英夫 木原隆夫  
佐藤公彦 田丸 寛 辻原 治 野路耕三 平野佳延  
福岡英二 船井俊志 正兼 哲 松浦晃幸 森 有岐  
行武禎一 湯山幸輝 渡邊美和

※平成28年2月1日~平成28年4月30日にご寄附いただいた皆さま(五十音順・敬称略)

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

**TEL 0852-32-6603(総務課)**

ホームページ [http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund\\_recruit/](http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/)  
※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

## 編集後記

空が青く太陽が眩しい季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。綺麗に晴れた日はどこか自然を感じる場所へ行きたくなりますよね。山に行ったり海に行ったり川に行ったり。溢れる自然を存分に味わって、わくわくするようなこの季節を楽しみたいと思います。

さて、広報しまだい29号はいかがでしたでしょうか。これまでもご紹介しておりました「古代出雲文化フォーラム」に加え、今年度から新しく始めました「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」「COC人材育成コース」なども特集いたしました。第一期生となる学生達の活動、挑戦、成長する姿を共に見守っていただければと思います。

今後もしいきいとした学生の姿や、先生の研究、島根大学の取り組みなどが皆さまに楽しんでもらえるような広報を目指して邁進していきたいです。これからも広報しまだいをご覧いただきますようよろしくお願いいたします。

### 投稿の お願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

#### 投稿先

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室  
TEL.0852-32-6603 FAX.0852-32-6019

E-mail [gad-koho@office.shimane-u.ac.jp](mailto:gad-koho@office.shimane-u.ac.jp)

HP <http://www.shimane-u.ac.jp>

### PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「いちごジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。  
※応募締切/平成28年9月9日必着



# OPEN CAMPUS 2016

## 松江キャンパス

8/7(日)

- 教育学部
- 生物資源科学部

8/8(月)

- 法文学部
- 総合理工学部

人間科学部 両日開催!!  
(設置申請中)

## 出雲キャンパス

8/7(日)

10/16(日)

- 医学部



人とともに 地域とともに  
国立大学法人  
**島根大学**

お問い合わせ先

### 松江キャンパス /

島根大学教育・学生支援機構入学センター  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
**TEL.0852-32-6625**

### 出雲キャンパス /

島根大学医学部学務課入試担当  
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1  
**TEL.0853-20-2087**



- 障がい等により配慮の必要な方は事前にご相談ください。
- <<松江キャンパスでは>>○学食などの利用が可能です。
- 学外に駐車場を設けますが、数に限りがありますので公共交通機関をご利用ください。

詳しくは島根大学ホームページをご覧ください。 [島根大学 オープンキャンパス](#)